ルーブリックは、「できた・できない」だけを判定する表ではありません。

「できた・できない」で終わらない キャリア教育ルーブリック作成シート

ルーブリックは、
「どんな姿を目指すのか」をあらかじめ言葉にし、
活動後の振り返りと次の一歩につなぐための道具です。

点数を付けることだけを目的にせず、
生徒と先生が「どこまでできたか」「次に何を試すか」を共有します。

考え方

3つの役割

- 目指す姿を事前に共有する
- 活動中の行動や言葉を見取る
- 振り返って次の目標を決める

出所：文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」等を参考に、授業で使うルーブリックの例として吉田正之が整理

まず、授業で育てたい力を一つか二つに絞ります。

基礎的・汎用的能力を「全部評価する表」にしない

この資料では、授業のねらいに合わせて「今回、特に見る力」を絞る方法を提案します。

① 人間関係形成・社会形成能力

- 人と関わる力
- 相手を受け止め、協力し、社会とかかわる

② 自己理解・自己管理能力

- 自分を理解し整える力
- 自分のよさ・課題に気づき、行動を調整する

③ 課題対応能力

- 課題に向き合う力
- 考え、試し、よりよい方法を探る

④ キャリアプランニング能力

- 将来を考えつなぐ力
- 学び・生活・将来の生き方を結び付けて考える

注意:4つすべてを毎時間評価する必要はありません。授業の目的に合わせて、見る視点を選びます。

抽象的な「力」を、授業で見える行動に変えます。

例：人間関係形成・社会形成能力を話し合い活動で見る

抽象的な言葉

「協働できる」

見える行動に変える

相手の意見を聞き、自分の考えと比べて話している。

3段階で表す例

① はじめの姿

- 相手の話を聞き、自分の考えを伝えようとしている

② できてきた姿

- 相手の考えと自分の考えを比べて話している

③ 次に目指す姿

- 違いを生かし、よりよい考えにまとめようとしている

「性格」ではなく、授業中に見える言葉・行動で書くと、生徒にも先生にも分かりやすくなります。

先生だけで決めず、生徒自身の振り返りにも使います。

ルーブリックを「評価の表」から「対話の道具」へ

① 事前共有

今日見る力と
目指す姿を確認

② 活動

授業・体験で
実際に試す

③ 自己振り返り

自分はどの姿に
近かったか考える

④ 対話

先生・仲間と
理由を話す

⑤ 次の目標

次に試すことを
一つ決める

自己評価を、そのまま評定に置き換えることが目的ではありません。
「なぜそう振り返ったのか」を話し、次の学びを考える材料にします。

そのまま使える「簡易ルーブリック例」から始められます。

例をそのまま使うのではなく、自校の授業目的に合わせて調整します

例：話し合い活動｜人間関係形成・社会形成能力の一場面

見る視点	① はじめの姿	② できてきた姿	③ 次に目指す姿
相手の意見を受け止め、自分の考えを伝える	相手の話を聞き、自分の考えを伝えようとしている	相手の考えと自分の考えを比べて話している	違いを生かし、よりよい考えにまとめようとしている

※これは文部科学省の公式ルーブリックではありません。
手引きを参考に、授業相談用の例として吉田正之が整理したものです。

ルーブリックづくりの相談も
初回30分無料

公式LINE：学校名・お名前・相談内容を簡単にお送りください。